

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800015		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア下呂		
所在地	岐阜県下呂市森2273番地		
自己評価作成日	平成24年8月24日	評価結果市町村受理日	平成24年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192800015-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192800015-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年9月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念に基づき、地域に根ざす安心、信頼、やすらぎをモットーとし、職員一人一人が意識を持って介護サービスに努めています。また、利用者が残された力を発揮し、食事作りのお手伝いや裁縫などをおこなっていただき、いきいきとした生活が送れるように支援しています。その他にもその人が出来る事を見つけて継続していただけるように努めています。選ばれる施設を目指し、個々の努力と職員全体のチームワークで職務を遂行するように努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体にした総合高齢者福祉施設の中にあるグループホームである。天然温泉の設備があり、癒しの効果を活用しながら、安らぎのある生活を支援している。利用者の残存機能が発揮できるように、場面づくりを工夫し、アイデアを出し合いながら、全職員が一丸となって取り組んでいる。そして利用者一人ひとりの思いを受け止め、より豊かに、その人らしい暮らしを実現している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が職場全体に浸透するよう、ミーティングや会議など、機会ある毎に取り上げ、それを意識して職務にあたるように努めている。	理念は「今までと変わらない安らかで心和む暮らしを支えていく事」を掲げている。理念を玄関に掲示し、また、職員会議でも繰り返し確認している。住み慣れた地域の中で、信頼関係を大切にし、安らぎのある暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区内清掃では、職員が参加して交流を図っている。また祭礼や行事には地域の方々の訪問を受けるなどして交流している。事業所の行事にはボランティアの方々に参加していただいている。	地域の会合に、管理者が積極的に参加し、地域とホームの橋渡し役を担っている。ボランティアとの交流も日常的である。祭では、太平の舞い・子ども御輿等が玄関まで来て、利用者を楽しませている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー2級養成講座の受講生の実習受け入れや、推進会議において認知症を理解するための勉強会も取り入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回推進会議を開催し、ご家族、地域代表、市役所の方々に毎回参加していただき、サービス向上に活かせるように意見や情報を伺っている。老人福祉及び認知症への理解の為の勉強会も取り入れ相互理解も高めている。	2ヶ月に1回、家族・地域の代表・行政・地域包括支援センター・老人クラブの代表・町の有識者の参加で、ホームの活動報告や地域の情報を基に、活発に意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に行政と連絡を取り合い、協力関係が築けるよう努めている。	市へは、ホームの現状や介護の取り組みを積極的に伝えている。介護保険改正のポイントについて問い合わせたり、市の福祉計画などでも情報を交換し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容とその弊害については、勉強会で理解している。また日々のミーティングなどでも、取り上げて身体拘束をしない介護を心掛けている。	身体拘束をしないケアについて、その弊害を内部研修で全職員が周知している。拘束の具体的な行為については、日々のケアの見直しやモニタリングで取り上げて、見守りや安全対策を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議やミーティングなどにおいて常に虐待防止を徹底している。言葉による虐待にも注意し、防止を図っている。		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際にこの制度を必要とされる利用者がおられないこともあり、活用できるような支援はできていないが、推進会議などで制度の内容などを取り上げて学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設の方針、内容等について十分説明し、納得していただいた上で契約を交わしている。また改定の際は、文書と口頭にてその都度説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者にはそれぞれ担当者がついており、意見や要望を伺いやすくしている。ご家族には面会時や定期の通信誌により、要望を伺って運営に反映させられるよう努めている。	利用者が担当職員に思いや意向をつたえやすくする工夫をし、家族には面会時や訪問時に話を聞いている。運営推進会議の案内や通信誌で、要望や意見を求め、意見等を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や随時のミーティングにおいて職員から意見や問題点を聞き、皆で話し合っ方針を決めたりしている。	職員会議やミーティングでも意見交換が盛んに行われている。職員配置に関する事・食事の時間に職員の介助用のエプロンをはずす事・行事の際の予算計上等、出てきた意見を検討し、運営に反映させ、働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や勤務状況、勤務態度を考慮し評価している。職員の都合に合わせた休暇が取れるようシフトを組むようにしている。又研修などにも参加しやすいように考慮し、推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を設けて、職員のスキルアップを目指している。施設外の研修は情報を提供して、希望者が参加できるように勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設としては、同業者と交流する機会は作れていないが、電話などにて情報を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会時より、ご本人やご家族の言葉に耳を傾け、入所後も要望などを職員に話しやすい環境づくりを心掛け、ご本人が安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談されるご家族が、ご本人に対し困っていることや不安に思うことなどの話をしっかり聴く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネがその時点で何が必要か、ご本人やご家族から十分なアセスメントを行って把握し、適切な支援ができるように心がけ、サービスにつなげるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの人間性や性格、力量に配慮しながら職員は利用者と同じ目線で生活していけるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向や可能性について、ご家族にも意見を伺うことで、職員だけでなくご家族も共に支援している、という関係を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	繰り返し訪問してもらえようような明るい雰囲気作りを心掛けている。また行きつけの店への外出支援なども行い、関係が途切れないように努めている。	近所の人・元職場の人・従業員・信仰仲間・親族等が訪問している。また、行きつけの店・図書館などへは職員が送迎し、関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入って良好な人間関係が保てるように配慮している。行事などでは、利用者同士がふれあいの場を設け交流できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族から相談があった時は、その都度対応している。他施設に入所された時は、サマリーなど情報提供を行い、ご本人の介護に役立つように配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの訴えや意向に耳を傾け把握に努めている。ケアマネが介在し、配慮しながら、本人の意向に沿えるようにミーティングやカンファレンスで検討し、対応している。	レクリエーションや食事等の時間を活用し、意向や思いの把握に努めている。担当職員は、日々、利用者と向き合って話を聞くようになっている。利用者の思いや意向を、カンファレンスやミーティングにおいて、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやサマリーの活用、またご家族の面会に話を伺ってこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者が訪室し、日々の暮らしぶりの状態を把握したり、又介護記録や申し送りノートを活用して状況を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの要望、職員からの意見を元に介護計画を作成している。カンファレンス実施後は、その結果を全体ミーティングで発表し、ケアのあり方を統一できるように努めている。	本人・家族の要望や意向を聞き、日々の経過記録を全職員で検証し、介護計画を作成している。モニタリングは、毎日行っている。介護計画の作成に当たり、本人主体の暮らしに反映されていない場合がある。	介護計画とケアの実態に差が生じないよう、柔軟な見直しに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他にも介護日誌や特記録に記入することで、職員間で情報を共有しケアの実践や介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の訴え、意見を尊重し、その時々状況に応じて、柔軟な支援を行えるようにしている。		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで絵手紙教室の講師や住職による講話を定期的に開催している。行事では地域の芸能ボランティアに来所していただき、楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診を行っている。かかりつけ医の受診も入所後も継続できるように対応している。	かかりつけ医は、利用者や家族に確認し、精神科・内科は継続してもらっている。協力医師が利用者全員に月に2回の訪問診察を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のバイタルの異常や体調変化など、介護職の気づきを看護師に報告し、適切な受診や看護を受けられる用に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換や相談は密に行うように努めており、協働体制が取れるように関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意向調査票を作成している。重度化に伴い、その都度意向の確認をしている。終末ケアについて本人とご家族が望む生活が送れるように、十分な話し合いをしている。協力医院に往診にて対応していただいている。	利用開始時に、本人・家族と、意向調査票に基づき、重度化・終末期に向けて話し合いをしている。医療処置の必要な人も受け入れている。地域の医師と協力連携を取りながら、終末期のケアを、家族と共に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に来所していただき、救命講習を実施している。また消防署主催の講習会へ参加したりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防訓練を行っている。地元自治会に加入し、災害時の協力をお願いしている。	年に2回、目標を決めて訓練を行い、地域の防災訓練にも出席している。災害時において、地域の避難場所として、また、備蓄の提供等協力体制を整えている。地域との協力体制は、自治会と合意している。地震災害を想定した訓練は、今後の検討課題である。	地震への災害対策についても、その取り組みにを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについては、日々のミーティングや会議で毎回話し合っている。接遇に対しての研修会もおこない、日々の介護の中でも、人格を大切に接し方になっているか確認している。	接遇の外部研修を受けた職員を中心に伝達講習を行い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねない言葉かけを徹底し、明るい表情で接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアマネや居室担当者が定期的に訪室し、ご本人の思いを表出しやすい場面を作るようにしている。また表情や反応にも注意するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている。利用者の体調や状態に見合った関わり方をしている。また、ミーティングや会議などで職員側の都合による処遇はしないように検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の出来る範囲の中で季節毎の衣替えを利用者と共に行ったり、着替えの準備などもご本人に選んでもらったりしている。ひげ剃りや整髪は毎日していただけるように、介助、支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど、出来る範囲で手伝っていただいている。週に一度の手作りおやつや旬の食材を使った朴葉寿司やよもぎ餅などを一緒に作ったりしている。	調理専門の職員を配属している。食材の一部は、利用者と共に買い物に出かけている。食卓拭きやおしぼり渡しなど、利用者の出来る範囲で、準備等の協力を得ている。週1回のおやつ作りなども楽しみながら取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を個人記録やバイタル表に記録し把握している。利用者に応じて、きざみペーストやとろみ付けなどして食べやすいような食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの他にも、起床時・就寝前は特に念入りに行っている。自己にて出来る方は見守り、介助の必要な方は職員が支援している。		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導、介助させていただいている。	排泄チェック表を活用し、排泄の自立に向け、トイレへ誘導している。利用者の表情や行動に注意して、事前に尿意を察知し、オムツの使用量を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握しながら、看護師の指示に基づいて内服薬及び、坐薬を使用している。また水分摂取や牛乳、ヨーグルトなどの提供をおこない、便秘予防への対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉及び、ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じながら、ゆっくり楽しく入浴していただいている。また希望する方には、毎日入浴していただいている。	利用者の希望に合わせた入浴支援をしている。介護度の高い人にも、職員2人に対応している。広い浴槽で、温泉湯を豊富に使い、利用者には、ゆったりと、入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の清潔や室温管理に注意し、夜間及び日中希望される時はいつでも休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての勉強会をして、スタッフの意識向上に努め、体調変化時には直ちに看護師に報告し、指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできること(洗濯物たたみ、食事準備など)をしていただいている。またカラオケ、散歩など、ご本人の意向に沿って気分転換を図っていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ(花見・紅葉)などドライブに出て外気に触れていただいている。天気の良い日はホームの周辺を短時間であるが散策していただいている。個々の希望にて美容院、図書館への外出等、支援をしている。	移動が困難な利用者は、居室前の広い廊下で、外気浴をしている。季節に応じたドライブ(花見・アジサイ・紅葉)・慣れ親しんだ店への買い物・図書館・美容院等、利用者に応じて外出支援を行っている。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、外出にて買い物をしていただいている。月2回の移動販売では希望者に参加していただき、支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の希望に基づいて、電話は自由に使用していただき。また郵便BOXを設け自由に郵便物を出していただけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔・安全に心掛け、四季を感じて頂けるよう、スタッフと共に工夫をし、明るい空間作りに心掛けている。	ロビーには、季節の花を活け、壁や廊下には、様々な掲示物を飾り、生活感を採り入れている。奥行きのある廊下には、手すり設置し、転倒予防にも配慮した、安全な空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに使い慣れた座布団を置き、ゆっくり休んで頂けるようにしている。気の合うご利用同士で座っていただけるよう座席の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族の希望で自宅から使い慣れた物を持ち込んでいただいている、またスタッフ手作りの写真を飾るなど、環境にも工夫している。	和室には、三面鏡・整理タンス・衣装かけ・舞い扇・写真・鉢植えの花など使い慣れた馴染みの物を配置している。利用者の自宅の延長線上のような、工夫された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場面に応じ、スロープ・手すり、を設け、安全かつ安心して行動していただける様に対応している。		